

Ai アンケート集計結果

2014年11月5日 岩手県CT研究会・高速らせん研究会共催会

調査目的

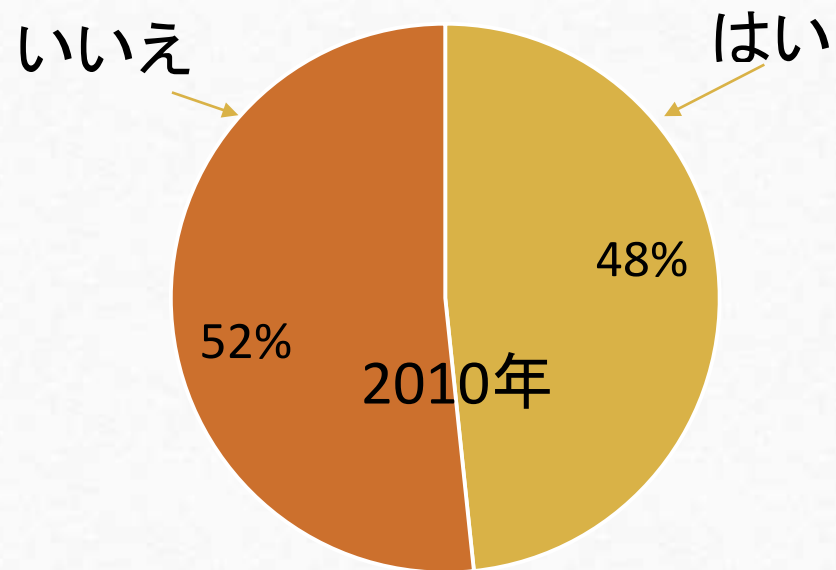
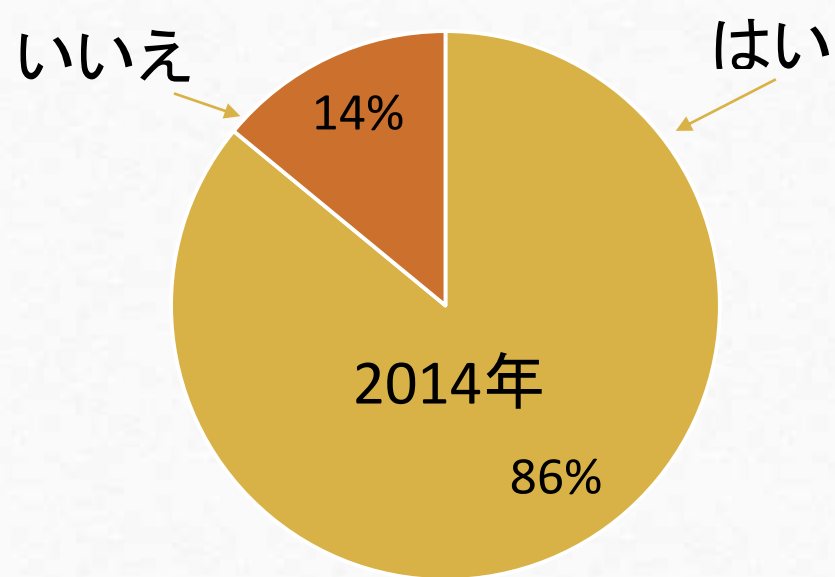
- CT研究会では2010年にAiのアンケート実施報告しておりましたが、4年経過し、岩手県内でどのように変化しているかを再調査しました。
- 技師がAiに携わるにあたり、何が必要かをアンケート結果から見出し今後発展させていくための参考になればと思います。

アンケート概要

- 11月5日 来場者総数91名（講師、スタッフ含む）
- アンケート回収60 有効回答数57
- 2010年施行のアンケート内容とも対比

問1

貴施設ではAiを行っていますか？



2010年から実施施設の割合は増え、
おおよそ8割以上がAiを実施している。

問1で“いいえ”とお答えの場合Aiを導入する予定はありますか？

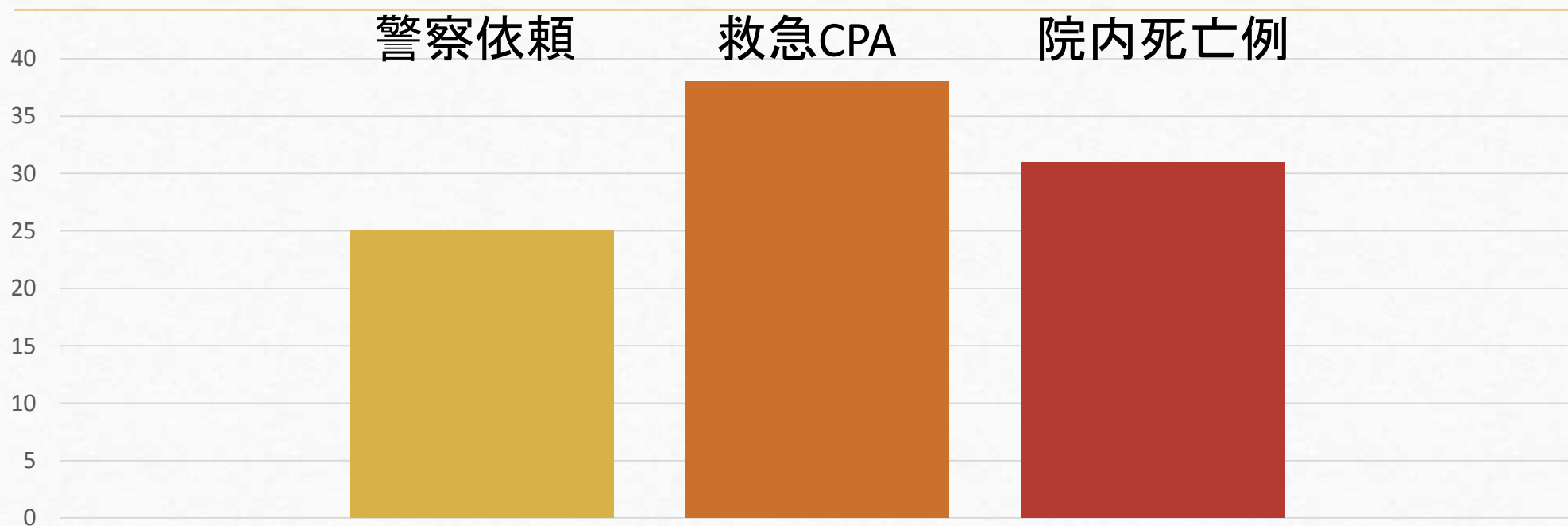
- 1年以内に導入 0%
- 3年以内に導入 0%
- 予定なし 100%

実施出来ない理由
・検診機関のため
・施設の性質上

“いいえ”と答えた施設
・検診施設 } 80%
・診療所 }

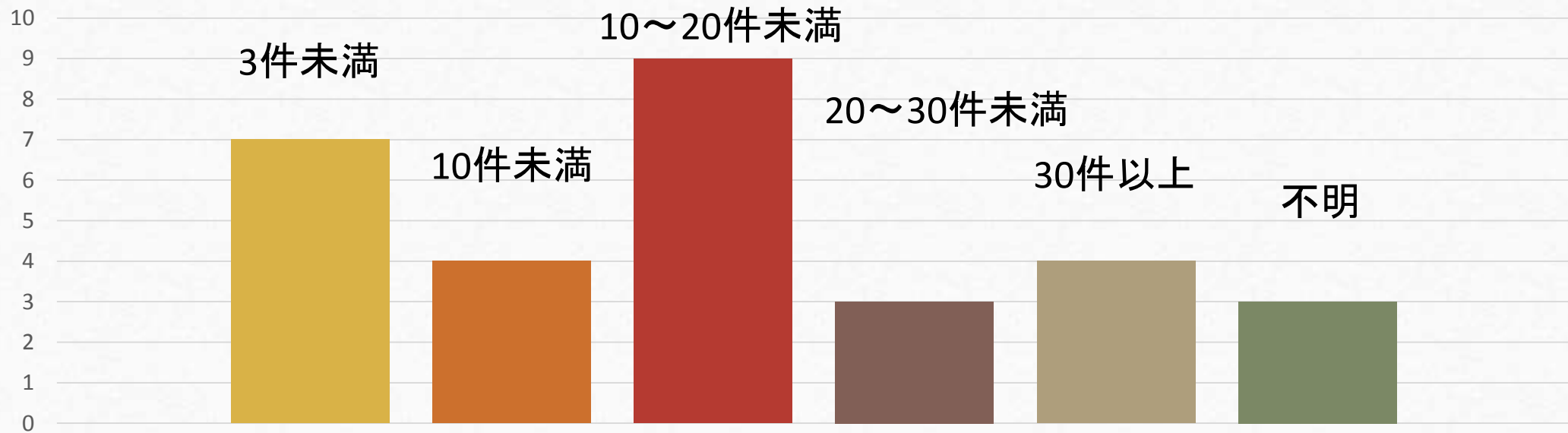
県内主要な病院ではAiが行われている。

県内で行われているAiの種類



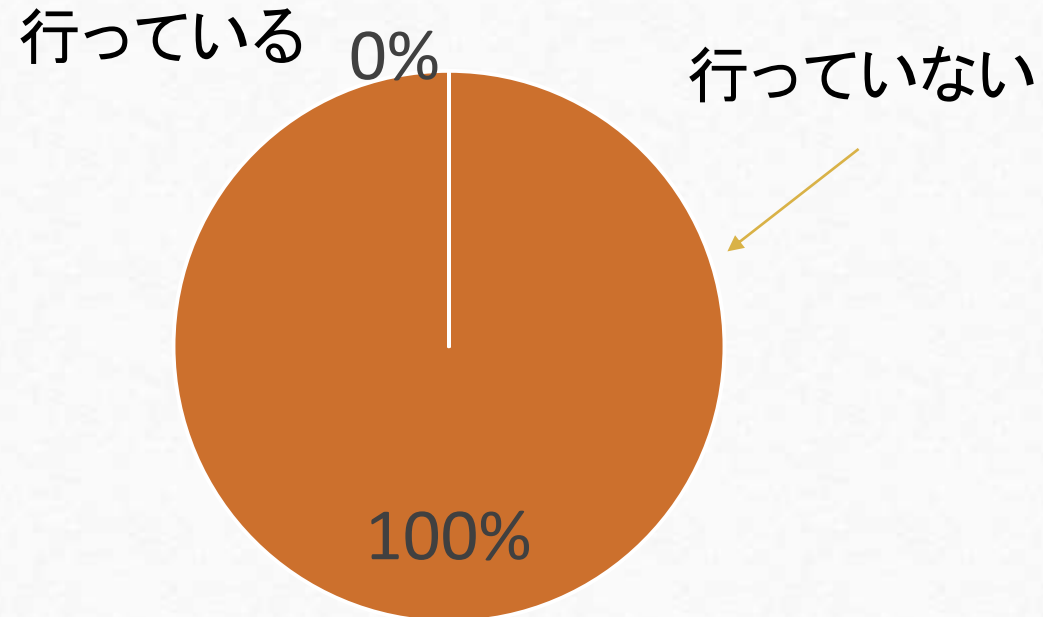
救急CPAを中心に院内死亡例・警察依頼も県内多施設で行われている。

年間どれくらいの件数が行われていますか？



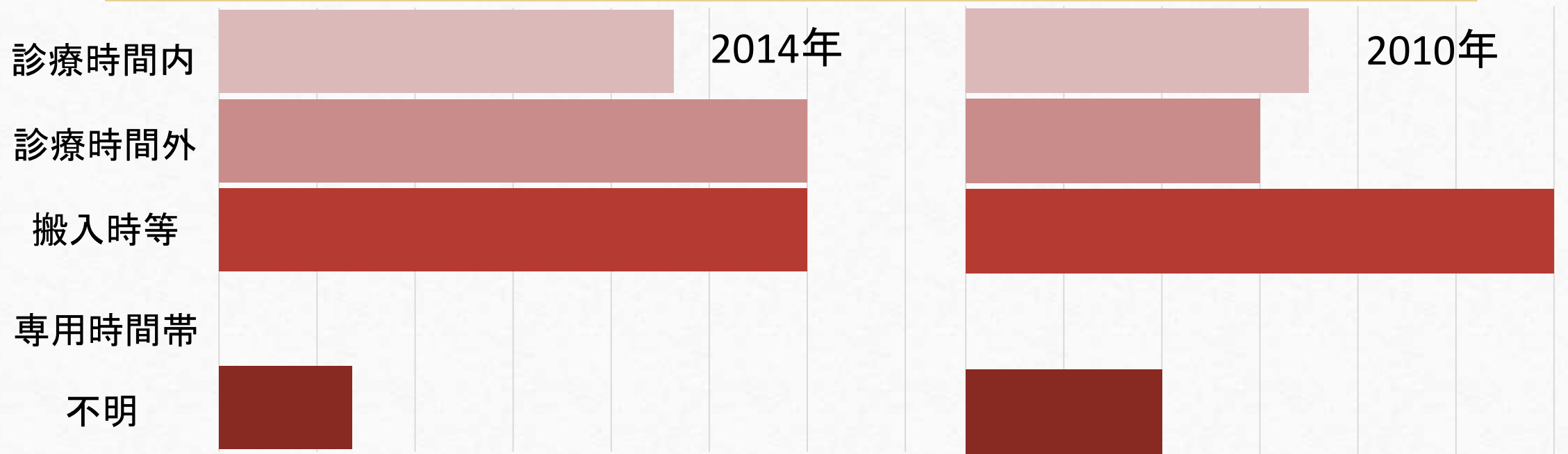
年間3件未満と年間10~20件未満の施設が多く、
年間件数が少ない施設がやや多い傾向であった。

MRIでもAiを行っていますか？



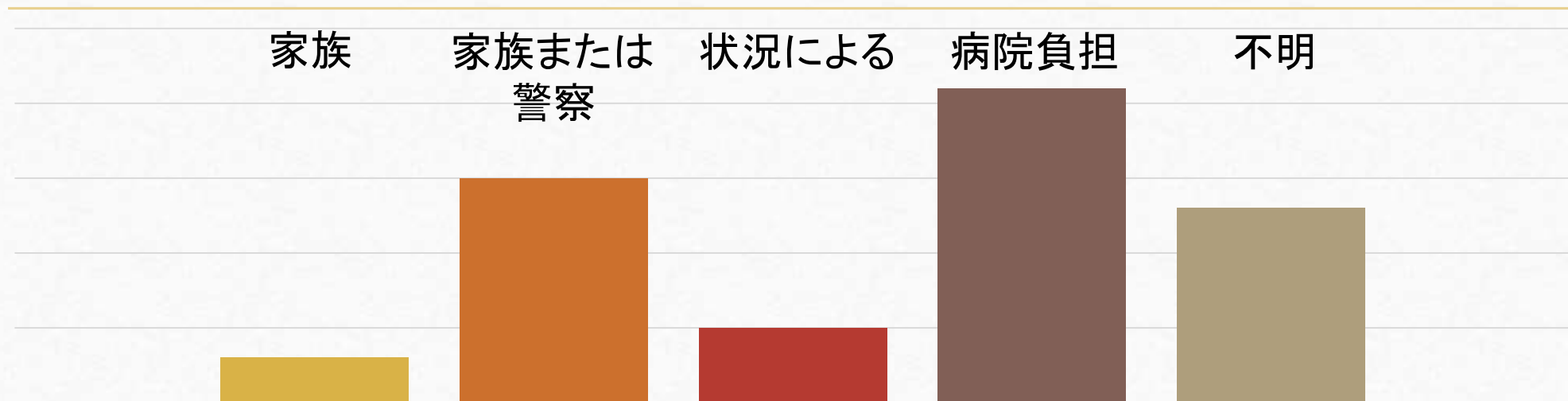
本アンケート上では岩手県内でMRIによるAiは行われていないと思われる。
(2010年アンケートでは1施設行っていた。)

主にどの時間帯に撮影しますか？ 2010年アンケートとの比較



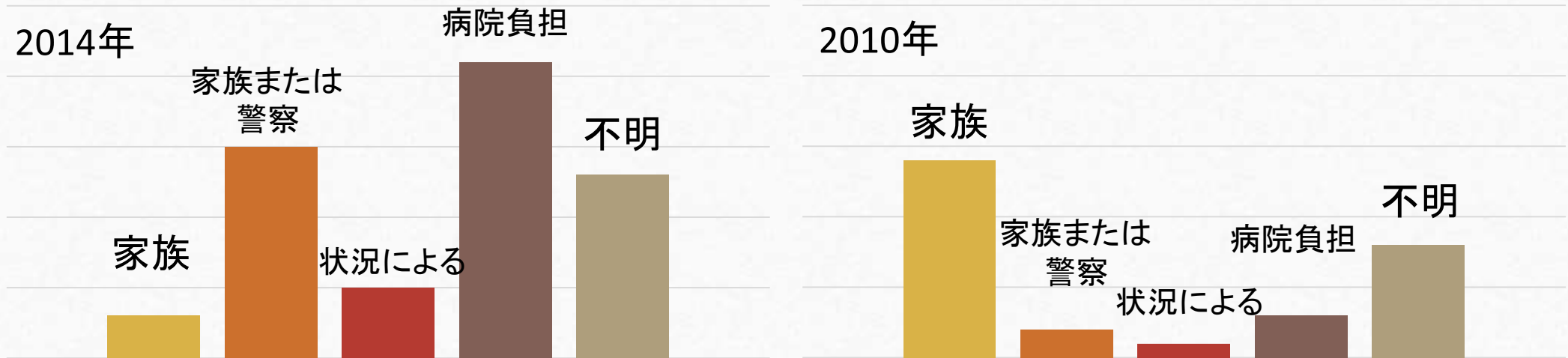
2010年は搬入時に行われる事が多かったが、
現在は診療時間内外でも行われる率が増えてきている。

検査費用の請求先はどちらになりますか？



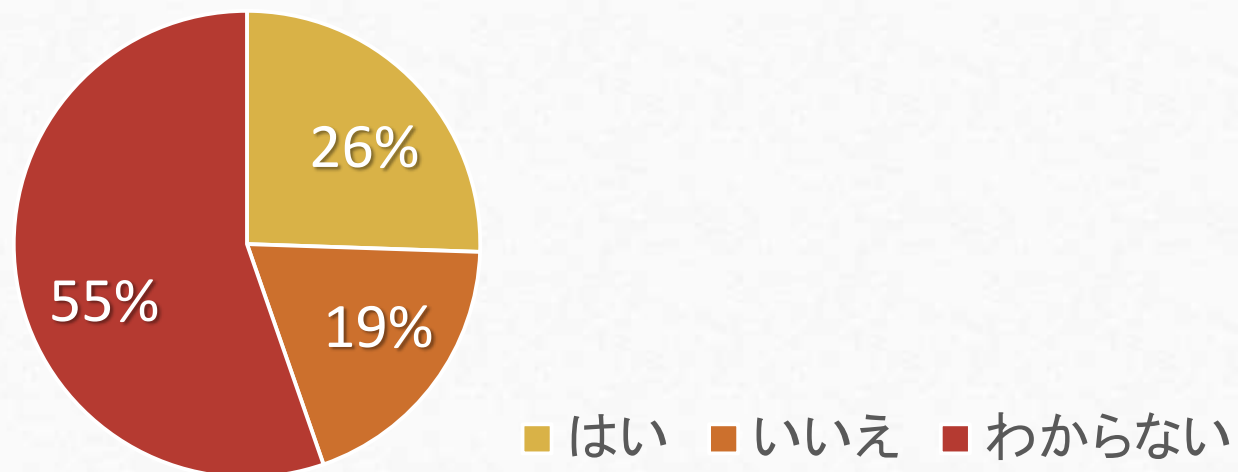
費用は病院負担の施設が最も多く、家族または警察負担の施設も多い。不明の回答も多いため、技師が費用面を把握できていない現状が窺える。

検査費用の推移



2010年の時と比較して家族への請求から病院負担の割合が増加している。

警察からのAiに関する検査契約は 既にありますか？



警察病院間の契約が技師にまで情報として伝わっていない現状が窺える。

Aiが実施される中での問題点もしくは 技師としての意見を教えてください 集約

問題点

- 院内での運用方法、費用の取り決め等が実施体制が整備されていない。
- 院内での撮影プロトコールや表示方法が定まっていない。
- 認知度が低く、必要性が理解されていない。
- 倫理的問題(患者と遺体を同一の機械で撮影して良いのか)。
- Ai画像の読影、判断が難しい。
- 放射線科医があまり協力的でない。

Aiが実施される中での問題点もしくは 技師としての意見を教えてください 集約

意見

- 撮影スタッフ間での技術プロトコル、撮影フローの統一が必要。
- 読影力の向上が求められる。(死後の正常な状態も含めて)
- 不明死因に対する感染対策が求められる。

まとめ

- Aiは検診機関を除くと県内主要な医療機関中心に多くの施設で導入されており、救急CPAを中心に院内死亡例・警察依頼例も行われている。
- 年間件数は3件未満または20件未満の施設が多く、費用の請求先は病院負担が最も多かった。警察との契約内容が不明の回答も多いため、技師が費用面を把握できていない現状が窺える。
- 一方でプロトコールや表示の統一が定まっていない事や感染対策を含んだ実施体制が整わないまま行っている施設も多い事から、技師が今取り組むべき事はこれらの整備と情報共有であると考える。